

第4回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録【概要】

日 時 平成28年9月27日(火)16:00~18:07

場 所 津山市役所本庁2階第1委員会室

出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 9名

委員長 松岡信義(美作大学短期大学部教授)

副委員長 松本浩之(津山市PTA連合会会長)

委 員 小坂田昌平(津山市体育協会会長)、甲田敦三(津山市小学校長会長)、
菅原良二(一般公募)、杉山明(津山工業高等専門学校教授)、
塚本さつき(津山市立幼稚園長会長)、福田邦夫(津山朝日新聞社
代表取締役社長)、八木芙佐子(津山市文化連盟会長)

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長、企画調整官、関係各課長等 16名

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

素案について

第4章について

(事務局説明)

・事前に送付した資料にもとづき各部単位で説明。(学校教育部・生涯学習部)

(委員の意見)

・「教師の指導力の向上を図り、わかる授業の実現に向けて、保幼小中で連携した学習規律の定着に向けた取り組みを推進するとともに…」という書き方があって、主な取り組みに「教師の指導力の向上のために…小中で連携した研修の実施等の取り組みを進めます。」というのがあるが、施策を具体的に入れた方がよい。

・小中一貫の義務教育学校を視野に入れていることはないか。

・「第2章3教育基本目標(1)個の確立とつなぐ力を育む グローバルな視野に立ち…」の部分を受けて、第4章では、「言語や文化を体験的に…」とあるのは、前提としてアングロサクソンの文化になるのでしょうか。これを見る限りでは、グローバルという言葉を使いながら、意識されているのが欧米圏だけなのかなと読める。

・小学校の英語が3年生から教科化されそうですが、その教員の指導力、語学力の向上、モデル校を指定して授業研究するだけの研修でいいのか。

・「豊かな心の育成」について、自然を観察したり、郷土を愛したり、言語力と感性を育成するということで、主な取り組みに、「読書週間の確立」とありますが、これに加えて文芸の創作活動の推進的なものが、ひとつ取り組みのなかにあってもいいのではないかと。

・「健やかな体の育成」の主な取り組み「学校体育の充実」体育の授業のことを謳っていて、「授業以外において、外遊びの奨励や児童生徒が自ら運動に親しむ環境づくりを進めます。」と書いていますが、中学校の部活動については、触れられていない。

・学校体育と社会体育との線引きはあるのか。

・主な取り組み「生徒指導の充実」これは、新しく津山市総合計画の中に入ってということですが、「警察と連携した…」という書き出しが気になる。生徒指導と言うのは、警察と連携しなければ解決しないケースもあるでしょうが、ちょっと違うのではないかと思いますがいかがでしょうか。

・「児童生徒に対して、専門家の見立てにもとづく適切な指導を行い、登校支援員を配置する…」のところで、不登校の対応と対策のところ、「指導を行い」の「指導」というのが適切なのか。

・学校支援ボランティアの項目がありますが、今現在、何人ですか。この人たちが基盤になって、もっと人が増え、そういう人が育つ場所もいるのではないかと。

・学校ごとのボランティアの中身は、年間を通じて決まったかたちであるのでしょうか。

・就学前教育に、保育園を含めたことを入れて家庭教育の支援にもっていく必要があるのではないかと。

・「つやまっ子家庭教育推進事業」は具体的に、どういった組織でどういったことをやっているのか。また、「さらに…」とは。

・「家庭教育力向上につながる学びの推進」に具体的なことを知らしめることと、新たな開発をお願いできたらと思う。

その他

第5回 検討委員会 平成28年10月25日(火)18:00~

4 その他

なし

5 閉会